

# 平新報

發行日 五日 發行  
編輯兼發行所 吉野山  
發行所 平新報社  
電話 二五二五  
定額金 五圓

## 磐城文化の先覺

### 芝山坂本隆藏翁の葬儀

平町一丁目坂本紙店主平町  
隆藏翁は去月二十九日長逝四月一日性源寺  
に於て葬儀執行された、供  
物、花輪、會葬者多数、弔  
電比佐代議士外三十余通、  
弔辭左の如く、

春寒料峭として尚に微し  
冷雨夕べに袂に露を結び  
憂愁の感轉だ禁する能は  
ざるの候本町會議員坂本  
隆藏君忽焉として長逝せ  
られる、噫 天意寔に測  
り難く、人壽眞に知るべ  
からざるも雖も世道の  
變易速賅すべからざるの  
實に哀悼の極といふべし  
惟ふに君のこの世に在る  
や天資明敏温厚にして篤  
實公平にして私心なく中  
に堅剛の天資を顕ひ外に  
寛厚の徳を具ふ徳行業に  
秀で事に充りて格勳勳  
變に處して周謀熟慮克く  
之を貫く内に家政を整へ  
家運年に隆盛外に町政の  
樞機に參照し地方金融界  
の事業に携はり行く處可  
ならざるなく爲す所成ら  
ざるなし、接するもの皆  
な君が徳風に靡き就れも  
水魚の交をなす蓋し君の  
如きは近時稀に見る君子  
人と謂ふべし。

九や君の令聞愛慕等永遠  
に嚴父の温容に接する能  
はざるの慘狀に至りては  
千言萬語奈何か之を盡す  
を得べき、噫 惻然なる哉、  
余今君が靈前に參り轉て  
往時を追憶し茫乎として  
夢の如く哀愁の念湧りに  
胸に迫り涙滂沱として禁  
する能はず則ち謹言敢て  
料るの暇なく茲に恭しく  
弔詞を呈し感戴愈々切に  
追慕の念益々深く聲涙共  
に下る向くは舞ひよ  
昭和十二年四月一日  
平町立小學校長代表  
平第一小學校長  
藤山 廉

## 二八會員

### 磐陽野球界に活躍

#### 永眠を惜まる

磐中十六回至二八會友湯本  
町鯨岡久一郎氏は昨年十一  
月來病氣漸癒のため上京中  
日永眠、四月一日湯本町鯨  
岡寺に於て葬送された。

#### 弔辭

磐中同窓二八會友々々鯨岡  
久一郎君ノ英靈ニ告ク慶  
世ノ流轉何ノ倏忽トシテ  
奇ナルヤ、淺カラシキ春ヲ  
グナムニシテハ世ニ歸  
ル花クルベキヲ何事ゾ其  
魂ヲ結ビモアヘズ遺ク世  
ヲ離レテ去リヌ天無情  
此ノ才人ヲ奪ヘル事三  
十九才命ヲ假セル壽ニ於  
テ幾何ゾ君幼少ヨリ賢性  
剛敏而モ才想煥發行クト  
シテ可ナラザルハナク、日  
小ニシテ適セザルハナン  
ノ爲大ニシテハ地方郷土  
ノ爲大ニシテハ地方郷土  
ノ爲大ニシテハ地方郷土

## 三五郎翁の訃

玉川村林城、銘酒玉の井  
三五郎翁は去月一日永逝され五  
日禪長寺に於て葬送された  
○東京朝日新聞 一月號  
○塔、影  
○漢字林  
テীগツベルト著

## 二八會友

### 栗野氏長逝

磐中二八會友栗野真平氏は  
病氣漸癒中の處去る一月二  
十一日永眠せりと、因みに  
氏は磐城セメントに永年勤  
續せる眞面目な人であつた  
遺族は神侯の同氏夫人の實  
家に居らるゝ由。

## 三猿文庫へ

入庫本目録(三五)  
○マンダラ 露風著  
○櫻三稜玻璃 露風著  
○滿洲圖案精華大成  
○國をあげて 立憲發正會に集れ  
○稀世製會 百人一句上、下  
○菊のまがき  
○政黨亡國論 上、下二冊  
○ねごと草 稀世製會發行  
○當世かもじひな形 同  
○世界文藝大辭典 同  
○伊藤公山縣公 同  
○時人傳 同  
○盛岡中學校々友會雜誌  
○第五十號紀念號  
○茶道讀本 同  
○歳前工業會員名簿  
○昭和十二年三月三十日  
○磐中同窓二八會  
代表 諸橋元三郎

平町四丁目  
**鶴屋洋品店**  
電話一四〇番

平町前  
**旅館 甲陽館**  
電話一四八番

平町田町 電話五二三番  
**高久病院**  
院長 高久 忠  
副院長 赤羽 清  
藥局長 佐竹 菊雄

**吸入用酸素** 純度 99%  
モノサシ  
ハカサ  
マ  
ス  
体温器  
寒暖計

秤ノ取緒・鍍糸・修覆致シマス  
●寫眞機 ●内藥局  
材料一式 電話四〇番

内科・小兒科  
**藤沼醫院**  
平町屋町 電話五〇七番

